

令和3年度 一般介護予防事業の取り組み状況

	No.	事業名等	内容	実施日	開催回数・参加人数
介護予防把握事業	1	実態把握	地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの総合相談業務の中で、民生委員等地域の関係者と連携を図り、地域の高齢者の心身の状況や家庭環境等を把握することにより、支援を必要とする高齢者や家族を早期に把握し、早期対応を図った。	随時	延397人
介護予防普及啓発事業	1	介護予防出前講座	介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や、健やかな生活の維持を目的として、高齢者が参加する団体に講師を派遣し、講座を開催した。	随時	13回 延218人 (内訳) はにとれ(再確認) 1回、18人 シナプソロジー 2回、延37人 食事・栄養について 1回、7人 体力測定 3回、延48人 お口のケアについて 1回、21人 フレイル予防 1回(3回コース)、延57人 口腔機能向上 2回、延30人
	2	介護予防研修会	参加者が介護予防の視点を持って生活できることを目的として、低栄養予防に関する研修会を開催した。	令和4年3月18日	1回、参加者数35人
	3	認知症簡易チェック	認知症の早期発見・対応のための認知症簡易チェックサイトについて、後期高齢者医療制度被保険者証に同封、広報やチラシ等により周知を図った。また、セルフチェック表を認知症普及啓発イベントに設置した。	通年	延2,195人利用
地域介護予防活動支援事業	1	はにとれ教室	市主催のはにとれ教室については、リーダーと話し合いながら、感染対策を講じて継続実施した。体力測定やアンケートを行い、評価を行った。不参加が続いている参加者には個別に連絡をとり、必要な機関やサービスへ繋いだ。 はにとれの動画は、ホームページやケーブルテレビで年間を通して放映した他、厚労省通いの場ご当地体操で公開した。	通年	参加実人数2,037人、延28,447人 登録81団体
	2	はにとれサポーター養成講座	はにとれを行うサポーターを育成するため、埼玉県理学療法士会に講師を委託して実施した。回数を見直し全6回で開催した。併せてボランティア登録の説明を行った。	令和3年10月7日～11月11日 毎週木曜日	全6回 実人数17人、延91人 サポーター登録5人
	3	はにとれ教室リーダーフォローアップ研修	はにとれを行う団体の代表者やリーダーを対象に、北部圏域地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの講師と共に、新型コロナウイルス感染予防対策やフレイル予防などの知識や情報の提供の他、リーダー同士の情報交換を行い、活動の継続や再開に向けた支援を行った。	令和4年1月27日、2月3日 2月9日、16日 2月24日、3月3日	1コース2日間×3会場 実人数49人、延93人
	4	あたまとからだの健康教室	あたまとからだの健康教室サポーターに協力していただき、話し合いながら、認知症予防に有効とされる運動や頭を使ったゲーム等を行う教室を開催した。	令和3年5月19日～7月7日 毎週水曜日 令和3年5月20日～7月8日 毎週木曜日 令和3年9月16日～11月11日 毎週木曜日 令和3年9月17日～11月5日 毎週金曜日 令和4年1月11日～3月1日 毎週火曜日 令和4年1月13日～3月3日 毎週木曜日	1コース8回×6会場 47回(降雪のため1回中止) 実人数75人、延人数498人
地域リハビリテーション活動支援事業	1	いきいき教室	介護予防のための運動、脳トレ、口腔機能向上の講話や実技をリハ職が講師となり実施した。緊急事態宣言中やまん延防止等重点措置期間中は、教室を2班に分けるなど感染対策を講じて継続実施した。令和4年2月以降は1班集体制で実施している。 基本チェックリスト及びアンケートを実施し評価を行った。	市内4会場 毎月1回	月1回×4会場 実施回数42回、参加実人数149人、延1,088人
	2	はにぼんお口の健康体操	はにぼんお口の健康体操については、感染防止対策のため、教室内で集団で実施する場合はマスクをしたままできる体操のみ実施するよう周知した。	随時	実施団体31団体 回数728回、実人数966人、延12,744人

取り組みの結果

- ・はにとれ教室をはじめとした介護予防事業については、感染対策を講じて継続実施した。
- ・はにとれ教室での体力測定・基本チェックリスト・アンケートの結果を昨年度と比較すると、体力はわずかに低下が見られ、運動機能リスク、認知症リスクのある人が増えていること、健康観が低くなっていることがわかった。また、口腔機能リスクと認知症リスクは、健康と感じる程度に影響せず、意識しにくいのではないかと結果であった。いきいき教室での基本チェックリスト・アンケート結果を昨年度と比較すると、運動機能リスクと口腔機能リスクが増えている。この結果は、教室のリーダーや参加者、地域包括支援センター、講師等に報告・説明した。今後は、出前講座で実施する体力測定の結果も蓄積し、介護(新規認定率や年齢、認定の要因疾患等)や疾病等医療のデータを活用して分析し、介護予防の取組のポイントを整理することが必要である。
- ・教室への不参加が続く人については、状態把握し、必要な機関やサービスに繋げた。
- ・サポーターの育成については、高齢者の生きがいづくり等を含め、他事業や関係機関と連動した取り組みを検討していく。
- ・認知症簡易チェックについては、セルフチェックと併せて相談に対応したり、相談機関を周知するなど、活用の場面が広がるよう検討する。